社会に与える破壊力は、すさまじいものがあります。

生物社会を、個々の生物の生存競争と優勝劣敗という姿で捉えるか、逆に、棲み分けと平和共存によって成り立つと見るかで、われわれを取りまく環境を見る目が、全く違って来ます。そしてそれは、自然観の違いというだけでなく、その大自然の法則に支配されている人間の、われわれ個人の生き方、世界観に大きくかかわって来る、とわたしは思うのです。

あ と が き

20年前、わたしが訪ねたマダガスカルは平和で、人々は優しく親切でした。が、その後この国も、他の若い共和国と同じ、試練の道をたどることになります。東西両大国の風圧によって、近代化を志向するナショナリズムは、しばしばゆれ動き、ねじ曲げられます。アフリカ諸国が置かれている、厳しい環境条件の中を、いかに耐え抜き生きて行くか……。内乱こそありませんでしたが、政変や暗殺、流血といった激動の中で、わたしが出会ったマダガスカルの人々はいま、どうしているのか。

キツネザルを育て、カメレオンを遊ばせていたあの森はいま、どうなっているのだろうか。

人間の社会には、「棲み分け」と「平和共存」はほんとうにあり得ないのだろうか。核外交や国際紛争のニュースを見るたびに考える、今日この頃です。

（やまだ　ちかお　ＮＨＫ放送総局編成部主幹、
元ＮＨＫ富山放送局長）

城址公園の木 ＝その２＝ モ　　ミ

太　田　道　人

クリスマスツリーの木としておなじみの、モミの木についてお話しましょう。

城址公園には、大小あわせて30本以上のモミが植えられています。自然状態では、山の尾根のところどころにかたまって、ほかの木よりもひときわ高く生えています。

モミは、どの木を見ても、円すい形のきれいな形をしています。つまり、幹の途中から出る枝は、順次、斜めに広がり、真上に向かって伸びるのは、いちばんてっぺんの枝一本だけです。これはなぜでしょう。モミの木の形（樹型といいます。）は、樹型ホルモンという植物ホルモンによって調節されています。（植物ホルモンとは、植物の花を咲かせたり、生長を調節したりする、植物自身が作る薬のようなものです。）樹型ホルモンは、まず、まっすぐに一番高く伸びた枝の先で作られます。そして、だんだんと、茎の中を下へ下へとおりていって、幹の途中から出ている枝に対して、「君達は上へ伸びるな。横へ伸びろ』という命令を伝えていきます。この命令を受けた枝は、真上へ伸びることがおさえられ、斜めまたは横に、はり出してきます。

もし、台風や雪などで、てっぺんの枝が折れてしまったら、どうなるでしょう。樹型ホルモンがなくなるので、上の方で斜めに伸びていた枝は、すぐに真上を向いて、つっ立ってきます。でも、その中で、いち番早く真っすぐになったものが、再び、樹型ホルモンをつくり出して、ほかの枝に「横へ伸びろ」という命令を伝えながら、自分だけ上へ伸びていくようになります。このほか、それぞれの枝から、次の枝を決める樹型ホルモンが出されているので、自然状態では、一本の樹型はひとりでに決められてしまうのです。

また、モミは、空気のよごれに、たいへん敏感で、公害の多い街では、葉が落ちて枝がまる見えになったり、皮が、はがれたりします。富山城址公園にある、30本以上ものモミは、みんな元気に枝をはっています。つまり、富山の街は、それだけ空気がきれいな所だと言えるわけです。

（おおた　みちひと　植物担当）

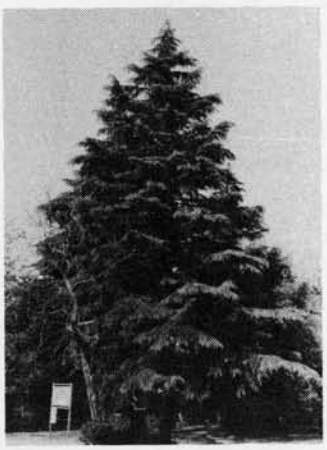

写真１　モミの樹型